

だい かいぶ かい いいん ごい けんとう  
第1回部会での委員からの御意見等について

ぜんたい  
<全体>

① イラストやスライドショー等への代替テキストを入れてほしい。

⇒代替テキストを挿入する。

② 情報ツールの要望への対応について、建設的な対話や、合理的配慮等でうまく説明してほしい。

⇒「障害特性に応じた情報保障」のページ冒頭で、「情報保障の対応について」として説明文をつける。(【ルビ版】資料3-2 P.3～4)

③ 介助者・ヘルパー・手話通訳者のほうではなく、本人のほうに話しかけていただきたいということで、文言を入れてほしい。あくまでも本人の意思を尊重することが必要。基本的な接遇態度が理解してもらえるようなホームページの構成というのを考えてほしい。

⇒「障害を知る」のページ冒頭で、「対応の基本と考え方」として説明文をつける。(P.1～2)

④ 対応例について、困り事から入っているが、障害のある方イコール困っているというイメージを社会が持っていると思う。記載方法の工夫が必要か。

⇒対応例の記載方法について、困りごととは削除する。(P.5)

⑤ 当事者が自分の障害を説明しない場合があることと、障害種別が分かっても人によって状況は多様なので、障害による分類が意味がなくなるという問題点がある。まずは相手の様子を見ながら有効なコミュニケーション方法を探ることがスタートだと思う。国交省の接遇マニュアル8ページを参照されたい。

⇒当該意見も踏まえ、「障害を知る」のページ冒頭で、「対応の基本と考え方」として説明文をつける。(P.1～2)

⑥ 障害種別というよりも、状況別という区分けはあり得ないか。相手がどういった人か分からない場合には、障害による分類は役立たない。

⇒・ホームページへの掲載として、まずはわかりやすく伝えるために、障害種別ごとにページを作成したい。その上で、個々人で障害の程度等が異なるため、個別に確認していくことが必要なことを明記する。(※「障害を知る」のページ冒頭の「対応の基本と考え方」と各障害種別の＜対応のポイント＞にて明記する。)

・今後、状況別の支援方法に関するページの作成を検討していく。

## <視覚障害>

⑦会議・イベントの対応例で、発言者とスピーカーの配置の違い等があれば、口頭で説明してほしい。

⇒対応例に追記する。(P. 9)

⑧学生のテストの対応例で、必要な媒体で設問を作成する以外に、時間的な配慮も必要。別室で受ける、時間帯の配慮が必要な人などもおり、どこまで入れるか検討が必要。

⇒・時間的配慮について、対応例に追記する。(P. 8)

・掲載する対応例については、情報保障として代表的なものや、必要性の高いもの等、取り上げるのにふさわしい事例を数点抜粋して掲載することとしたい。

## <聴覚障害>

⑨「盲ろう」の対応例を入れるならば、「盲ろう」だけの欄をつくって載せたほうが分かりやすい。

⇒「盲ろう」のページを新規作成する。(P. 18～23)

⑩資料5のNo24の事例について、聴覚障害者、オンライン会議のところで、Zoomの場合は画面共有で資料を出すという方法があるので、載せてほしい。

⇒対応例に追記する。(P. 17)

⑪手話通訳派遣の会社というのがあるが、聴覚障害者に関わっている派遣センターと異なるということで、できれば省いてほしい。

⇒「(参考 社福) 聴覚障害者情報文化センターホームページ」は、手話通訳及び手話通訳者の用語解説の文言について当該ホームページから用いたため記載しているが、派遣できる会社だと誤解がないように記載の仕方を工夫する。(P. 13)

⑫情報保障ツールで、筆談と手書き文字の違いが分からない。手話のできない人にとっては、手振りや身振りが有効な手段だと思うので、入れてよいのではないかな。

⇒情報保障ツールとして、筆談・手振り・身振りを入れる。(P. 11)

⑬国交省の接遇マニュアルでは「コミュニケーション支援ボード」として筆談ボードが含まれないが、資料4-3の「コミュニケーションボード」では、筆談ボードが含まれている。文言整理が必要か。

⇒・当初原稿案では、東京都障害者IT地域支援センターのホームページを参照し「コミュニケーションボード」という文言で記載していたが、呼び方が統一されていないため、「コミュニケーション（支援）ボード」と表記変更する。(P. 15)

- ・筆談ボードは、筆談器として、情報保障ツールの「筆談」の用語解説欄に追記する。

## <知的障害、精神障害、発達障害>

- ⑭視覚過敏、聴覚過敏、カームダウン、クールダウンについても触れるべきではないか。

⇒対応のポイント及び対応例に追記する。(P. 27、29)

## <肢体不自由、内部障害、難病、高次脳機能障害>

- ⑮資料4－3の肢体不自由の事例について、郵送物だと開けること自体が大変と思ったが、資料5のNo32の事例とのことで承知した。文言の整理が必要。

- ⑯内部障害や難病のある方も、申請書類の郵送対応が必要のため、その旨記載の整理が必要。

⇒対応例の文言を整理するとともに、肢体不自由、内部障害、難病のページの対応例に、申請書類の郵送対応に関する事例を掲載する。(P. 24～26)

- ⑰肢体不自由、内部障害、難病、高次脳機能障害で、様々な状態があり、求めるサービスが違うことも説明すべき。

⇒すべての障害種別の冒頭に<対応のポイント>を作成し、追記した。

## <ハートシティ東京について(既存ページについて)>

- ⑱ハートシティ東京の「障害を知る」の視覚障害者のページについて、「街中で…」の「横断歩道を渡るタイミングが難しい。」対応例について、「渡れますよ、ご一緒しましょうか」などと声をかけた際の対応方法を補記してほしい。(腕を組んだほうがいいのか、「私はあなたの右にいます」などの声掛けで同行すればいいのか等)

⇒対応方法を追記する。

- ⑲「障害を知る」の部分の支援方法については、動画で解説いただけるとより分かりやすいのではないかと思います。

⇒・動画作成について、今後の課題として検討する。

- ・障害者理解をより深めたいユーザーが受講できるように、都が行っている障害及び障害者理解研修の案内を追記する。

## ○その他変更事項

- ⑳情報アクセシビリティ法の記載は、障害特性に応じた情報保障ページの冒頭に記載する。(簡略化)(P. 3)